

オアシスだより



パーキンソン病とパーキンソン症候群

オアシス第一病院 副院長 藤本伸

パーキンソン病はアルツハイマー病について頻度の高い脳の病気で、人口10万人あたり約150人の患者さんがいます。この病気は安静時振戦(じっとしているときの手足のふるえ)、筋固縮(筋肉のこわばり)、小刻み歩行、動作緩慢、姿勢保持障害(転びやすい)を特徴とします。しかし、発症早期の患者さんは、すべての症状が出揃っていない場合があり、診断が困難なこともあります。

パーキンソン病と診断するには、パーキンソン症状(パーキンソニズム)を呈する他の病気を除外する必要があります。除外すべき病気は非常に多く、パーキンソン症候群と総称されています。

パーキンソン症状があると、パーキンソン症候群の診断名のままにされている患者さんが多くいます。パーキンソン症候群の診断名のままにしておく、いつの間にかパーキンソン病と混同されてしまっていることがよくあります。パーキンソン病は抗パーキンソン病薬に反応しますが、パーキンソン症候群では効果はあっても一時的です。パーキンソン症候群はパーキンソン病とは異なる病気であり、治療や経過も異なります。パーキンソン病と混同されないためにも、パーキンソン症候群の中のどの病気であるのかを診断しておく必要があります。

主なパーキンソン症候群を表に示します。

多系統萎縮症や進行性核上性麻痺はパーキンソン病と同じく進行性の神経難病ですが、初期にはパーキンソン病と区別が難しく、専門医でもパーキンソン病と診断してしまうことがあります。パーキンソン病は通常の頭部CTやMRIには異常を認めませんが、これらの病気はパーキンソン病よりも進行が早く、進行してくると頭部MRIに特徴的な所見がみられるようになります。

表

1. 多系統萎縮症
2. 進行性核上性麻痺
3. 大脳皮質基底核変性症
4. 脳血管性パーキンソニズム
5. 正常圧水頭症
6. 薬剤性パーキンソニズム
7. 脳炎後パーキンソニズム
8. 外傷性パーキンソニズム
9. 心因性パーキンソニズム
10. その他



お問い合わせ

医療法人善昭会 オアシス第一病院
〒870-0103 大分市東鶴崎3丁目3-19
電話 097-527-2211 Fax 097-522-0511



第28号 平成27年12月1日発行

脳血管性パーキンソニズムは、多発性脳梗塞によりパーキンソン症状を呈する病気で、抗パーキンソン病薬の効果は一時的で、階段状の進行がみられます。

正常圧水頭症は、小刻み歩行に加えて認知症、尿失禁をきたしますが、手術により改善する病気ですので、見逃さないことが重要です。

薬剤性パーキンソニズムは、向精神病薬や消化器病薬などでパーキンソン症状を呈するもので、できるだけ早期に原因薬剤を中止する必要があります。

以上のようにパーキンソン症候群には様々な病気が含まれており、経過や治療が異なりますので、パーキンソン症状があるからといってパーキンソン症候群の診断名のままで終わらせないことが重要です。

栄養コラム ～れんこん～

秋口に収穫されるものは、やわらかく、あっさりとした味わいですが、これから寒さに向かって、いよいよもっちりとした甘みを増しておいしくなってくるれんこん。ビタミンC、食物繊維、ムチン、ポリフェノールなど、冬を元気に過ごすための栄養素がたっぷり詰まっています。

れんこんにはレモンと同じくらいビタミンCが豊富に含まれています。ビタミンCには疲労回復、かぜの予防、老化防止などのはたらきがあります。ポリフェノールにも同じようなはたらきがあります。

ムチンは、れんこんの粘りの元になっている成分です。胃腸のはたらきを助け、保護してくれる成分です。

また、れんこんは中国の漢方、日本の生薬、そして欧米のハーブ療法でも、咳と痰を鎮める植物として昔から重宝されてきました。れんこんには気管の粘膜の働きをよくしたり、痰を切れやすくしたり、気管を拡げたり縮めたりしやすくするという作用があります。

しつこい咳、咳で眠れないとき、痰が切れにくい時などは、生のれんこん30gくらいを皮ごとすりおろして、搾り汁をそのまま、もしくは水やジュースで割って飲んでみることをお勧めします。

冷たく乾いた空気で、のどや気管を痛めやすいこの季節に、れんこんはおいしくて心強い野菜です。れんこんきんぴら、れんこんステーキ、筑前煮、天ぷら、サラダなど食べ方はいろいろ。皮のところに栄養素がたくさんあるので、できれば皮ごとお料理することをお勧めします。

